

大阪市立荻田小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和5年度大阪市小学校学力経年調査では、全学年、すべての教科で大阪市の平均正答率を下回っている。授業に対しての意欲や好感度について、中学年では大阪市の平均と同等だが、高学年では下回っている。

また、令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、体力合計点が男女とも、大阪市の平均を下回っている。立ち幅跳び以外の項目において、男女とも大阪市の平均を下回っており、学校における体を動かす機会の十分な確保や自ら運動する楽しさを味わわせる機会の設定等、課題を残している。

令和5年度の小学校学力経年調査の児童質問紙では、「学校のきまりを守っている」と回答した児童は85%である。しかし、日常的なめめごととも少なからずあり、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は75%である。遅刻や不登校児童も少なくない。「自分にはよいところがある」と回答した児童も71%と決して高くない。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査の「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を、35%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より2ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を63%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末に84.9%にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。（R5 71.4%）
- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（R5 74.5%）
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。（R5 69%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、32%以上にする。（R5 29.0%）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。（R5 57.8%）

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕（R5 約3割/日）
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、82%にする。（R5 81.5%）

(様式2)

大阪市立荻田小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<div>取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</div> <div><div><div>・ いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組を組織的に行う。</div><div>(いじめへの対応)</div></div><div><div>・ 児童どうしのつながりを増やす取組を行うとともに、不登校児童に対するアプローチを継続して行う。</div><div>(不登校への対応)</div></div></div>		C
<div>指標</div> <div><div><div>・ 児童が毎日、自分の気持ちを学習者用端末に入力する「心の天気」を活用し、回答が気になる児童に確実に対応する。</div><div>・ いじめアンケートを学期に1回実施し、いじめの早期発見に努める。</div><div>・ 高学年において非行防止教室を実施するとともに、道徳の学習や学級活動において、いじめ防止や集団育成の授業を年3回行う。</div><div>・ 児童どうしのつながりを増やすためにたてわり班活動など月1回以上行う。</div></div></div>		
<div>取組内容②【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</div> <div><div><div>・ 児童が自己肯定感を高め、他者への理解や思いやりの気持ちが育つような取組を行う。</div><div>(仲間づくり)</div></div><div><div>・ 各学年において、互いにちがいを認め合い個性を伸ばす取組、国際理解、平和学習、インクルーシブ教育を行い、全体で共有する。</div><div>(国際理解・平和学習・インクルーシブ教育の推進)</div></div></div>		
<div>指標</div> <div><div><div>・ ポジティブ行動支援に取り組む。</div><div>・ 国際理解、平和学習、インクルーシブ教育に関わる取組を学期ごとに1回ずつ実施する。</div></div></div>		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は、昨年度よりは増えたものの、目標の８５％以上には至らなかった。(R6 71.8%、R5 71.4%)
- 小学校学力経年調査(３～６年)における「学校には行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、昨年度よりは増えたものの、目標の８０％以上には至らなかった。(R6 78.4%、R5 74.5%) しかし、校内アンケート(１～６年)では目標数値を超えることができた(88.7%)。
- 小学校学力経年調査(３～６年)における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、目標の７２％を超えることができた。(R6 73.6%、R5 69.0%) また、校内アンケート(１～６年)でも目標数値を超えることができた(82.4%)。
- ・ いじめアンケートを学期ごとに実施することはできた。発見されたいじめについて、早早期対応できた件もあれば、現在も継続して対応中の件もある。
- ・ ポジティブ行動支援について、「あいさつ運動」は２回実施した。また、『『ありがとう』を伝えよう』の取組として、各学級でメッセージカードを書き掲示した。
- ・ たてわり班活動(児童集会)については、天気や気温、インフルエンザ等感染症の流行の影響もあり、各学級教室へのオンライン配信ですることが多くなり、異学年の児童とのつながりを増やすことができなかった。

次年度への改善点

- ・ 「心の天気」の入力・活用が毎日スムーズにできるように、児童の端末だけではなく、担任の端末を使用した入力もできるようにする等くふうを図る。
- ・ いじめが起こる原因は、問題行動や支援が必要な児童に対するフォローが十分でないことが考えられる。「見る目」を増やし未然防止につなげる。
- ・ 年度当初からの計画(児童集会)を立案し、異学年の児童とつながることができるような取組を考える。
- ・ ポジティブ支援行動については来年度が２年めとなる。年度当初から全校行動目標を決定し取り組んでいく。

(様式2)

大阪市立荻田小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、32%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 授業の中でペア・グループ活動の場を増やす。 ・ グループ活動を取り入れる授業づくりの研修会を行う。		B
指標 ・ 単元の中で1回は、話し合いの場を設ける。 ・ 学期に1回は研修会を行う。		
取組内容②【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 ・ 自ら運動に取り組む児童を育成する。(体育学習の充実) ・ 衛生的な習慣が身につくようにする。(規則正しい生活習慣) ・ 児童の発達段階にあわせて栄養指導を行う。(食に関する教育の充実)		C
指標 ・ 縄跳びや持久走の強調週間を設けて、自ら運動する楽しさを味わう機会を増やす。 ・ 手洗い強調週間を年3回行う。また、せいけつ調べ（ハンカチやティッシュを持ってきているか等）を週に1回各学級で行う。 ・ 1日ごとの残食量を計算し、残食を減らしていく。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は、昨年度よりは増えたものの、目標の32%以上には至らなかった。(R6 31.4%、R5 29.0%)		
○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は目標の60%を超えることができた。(R6 64.0%、R5 57.8%)		
・ 多くの授業でペア・グループ活動を行うことができた。		
・ グループ活動を取り入れる授業づくりの研修会を行うことはできなかったが、道徳の		

授業づくり等、他の研修や研究授業の検討会において、グループ活動を取り入れる授業づくりについて学ぶことができた。

- ・ プールの改修工事により縄跳びや持久走の強調週間は実施できなかったが、各学年縄跳びカードなどを活用することによって、体育の授業で取り組むことができた。
- ・ 年３回の手洗い強調週間を行い、感染症の予防に努めることができた。しかし、各学級での週１回のせいけつ調べについては、全学級での実施ができなかった。
- ・ 残食量の多い日もあり減少へと続かなかった。

次年度への改善点

- ・ グループ活動を授業に取り入れる内容の研修は、さまざまな他の研修や研究授業の中で具体的な教科と関連させながら行っていく。
- ・ 次年度は、プールの工事が終了するので強調週間を設けて、さらに運動する機会を増やす。
- ・ 各学級のせいけつ調べについては、朝の会に行うなど習慣化するようにする。
- ・ 残食量については、児童に負担がかからないことを配慮しつつ、学年間で協力を強化しながら、減らせる分は減らしていく。

(様式2)

大阪市立荻田小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、82%にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向番号6、教育DXの推進】 ・ 朝の時間や授業時間にデジタルドリルを活用する。(個別学習の充実) ・ 授業の中で学習者用タブレット端末を使う機会を増やす。(ICT教育の充実) 指標 ・ デジタルドリルを週2回以上活用する。 ・ 授業の中で週1回以上学習者用タブレット端末を使う。	B
取組内容③ 【基本的な方向番号7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ 会議を精選し、連絡掲示板を積極的に活用する。 ・ 紙媒体への印刷業務を減らし、ICTの活用や教材の共有化を図る。 (働き方改革の推進) 指標 ・ 学校からの手紙や学年だよりは、メールで配信する。 ・ スクールサポートスタッフとの連携を図り、印刷業務にかかる時間を削減する。 ・ 年間の時間外勤務時間を1人あたり360時間以内におさめる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕ことはできなかったが、活用した児童について1日あたりの割合は増えている。(R6 約6割/日、R5 約3割/日) ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は、目標の82%を超えることができた。(R6 97.4%、R5 81.5%) ・ デジタルドリルについて、朝の時間や授業時間内に活用する機会は増えた。 ・ タブレットの学習への活用について、中・高学年は協働学習やプレゼンテーションなどに活用する機会が多く、「週1回以上」という指標の達成ができたが、低学年では、ローマ字での文章入力を習得しておらず、写真を撮影するなどの活用方法に限られることから、上記指標の達成は困難であった。	

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 学校から家庭への連絡はミマホルメを活用した。今年度からの本格的な取組であったが、教職員間でも保護者間でも定着している。よって、印刷業務にかかる時間の削減やペーパーレスに取り組むことができた。・ 1人・1か月あたりの時間外勤務の平均時間(4～1月)は、昨年度の27時間36分から今年度は23時間23分となり、改善された。 |
| 次年度への改善点 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 授業の中でタブレットを学習に活用しやすくするために、どの学年の単元で活用したかを引き継ぐことができるようにしていく。・ ゆとりの日には電話対応を17時までとしたり、指導教材や学習プリントの共有化を進めたりして、今後も個人の時間外勤務時間を削減するよう取り組んでいく。 |